

別紙

温室効果ガス排出削減計画

氏名	(法人にあっては名称) 福山鑄造株式会社		住所	(法人にあっては主たる事業所の所在地) 〒714-0048 岡山県笠岡市緑町3番2	
本票作成	部署名：生産管理部				
主たる業種	分類コード	22	業種名：鉄鋼業		
事業の概要	銑鉄鑄物製造業（鑄鉄管、可鍛鑄鉄を除く） 従業員：約90人				
県内の主な工場等	番号	工場等の名称		所在地	
	①	笠岡工場		岡山県笠岡市緑町3番2	
特定事業者の該当要件	<input checked="" type="checkbox"/> ①燃料等原油換算1,500kl以上 <input type="checkbox"/> ②バス・トラック100台、タクシー250台以上 <input type="checkbox"/> ③CO ₂ 換算3,000t以上 (●工場等の数 1 所 ●車両台数 (②該当の場合) 台)				

計画期間	令和3年度 ~ 令和5年度 (3箇年度)									
削減目標	いずれかを選択	<input type="checkbox"/> 総排出量基準	目標削減率 3.0 %	目標区分	20%以上	20~15%	15~10%	10~5%	5%未満	○
		<input checked="" type="checkbox"/> 原単位基準								
温室効果ガス排出量	基準年度 (令和2年度)				目標年度 (令和5年度)					
	5,311 t CO ₂				5,152 t CO ₂					
基準年度の主な工場等の排出量	番号	工場等の名称		基準年度 (令和2年度) の排出量						
	①	笠岡工場		5,311 t CO ₂						
				t CO ₂						
				t CO ₂						
				t CO ₂						

※ 「計画期間」欄には、5箇年度以内で特定事業者が定める期間を記入する。

(原単位基準の削減目標を選択した場合に記入)	温室効果ガスの排出量と密接な関係をもつ値の内容 総溶解重量 (t)	原単位当たり排出量	
		基準年度	目標年度
		0.656 t CO ₂ / (t)	0.636 t CO ₂ / (t)

(該当事業者のみ記入)

ベンチマーク	対象事業の名称	ベンチマーク指標	関連数値 (令和2年度)	達成率 (%)
指標の状況				

【目標削減率設定の基本的な考え方】

- ・生産量の増減に伴う溶解炉の運用を見直し、柔軟な対応を行う。
 - ・待機電力の調査と削減。(長期停止時における停止機器の選択および停止)
 - ・老朽化設備等の更新。(変圧器の更新、トップラナー化等)
- 以上により、省エネ法に基づく年1%以上の温室効果ガス排出削減に取り組む

【目標削減率達成のための推進体制】

- ・省エネルギー管理組織の整備、活動：1回／月実施、代表者をトップに改善を図る。
- ・省エネルギー委員会の整備、活動：1回／年実施、エネルギー使用の実態を把握検証する。
- ・不良率低減委員会設置、活動：1回／月実施、現状の分析、検証を行い不良率の低減に努める。
- ・省エネ診断等の内容を検討、省エネ活動に活用する。

【排出量削減のためのこれまでの主な取組】

工場等の名称	取組内容
笠岡工場	<ul style="list-style-type: none"> ・電動機、ポンプを順次高効率機へ更新 (CO₂削減量 9.6ton/年) ・空気圧縮機75kwを運用改善の上、非常予備機として停止運用する (CO₂削減量 45ton/年) ・溶解炉立上げ3基中1基を生産量の減少に伴い年間20%停止する (CO₂削減量 48ton/年)

【計画期間中に目標削減率を達成するために実施する措置】

工場等の名称	措置内容
笠岡工場	<ul style="list-style-type: none"> ・工場照明：LED等、高効率型に更新 (CO₂削減量 2.6 ton/年) ・電動機、ポンプ：耐用年数を考慮して順次、高効率機へ更新 (CO₂削減量 12.4 ton/年) ・変圧器の更新：トップランナー機に更新 (CO₂削減量 4.8 ton/年) ・空気圧縮機運用見直し：76kwを非常予備機として、停止する (CO₂削減量 45 ton/年) ・溶解炉運用見直し：生産量の増減に対応、3基中1基停止等の運用を検討、実施する (CO₂削減量 48 ton/年) ・溶解歩留まりの向上：三次元CADの活用等により歩留まりを向上する

【森林保全等吸収源対策への取組計画】

県内での取組	無	
その他	無	

【再生可能エネルギーの導入計画】

県内での取組	無	
その他	無	

【その他特記事項】

- ・コロナ禍等による景気動向により、生産量が大きく変動し、そのため原単位当たりのCO₂発出量も大きく変動する。原単位の低減、CO₂発出量の削減に取り組む。
- ・冷暖房消費電力削減のため、クールビズ、ウォームビズ運動に取り組み。夏季28℃、冬季18℃を徹底する。
- ・社有車及び私有車に対して、アイドリングストップの実施などエコドライブ運動を啓蒙する。
- ・岡山県が実施するライトダウンキャンペーンに参加する。